

未婚就労女性のための性感染症予防プログラムに 必要かつ適切な要素

Necessary and appropriate elements to construct an
STI prevention program for unmarried working women

斉藤 早苗

要 旨

【目的】未婚就労女性のための性感染症予防プログラム（以下、プログラム）の必要かつ適切な要素を明らかにする。

【方法】A事業所に就労する未婚女性4名（22～32歳）を対象に、フォーカスグループ・インタビューを平成18年11月に実施した。

【結果・考察】プログラムに必要・適切な要素として、内容（コンテンツ）の提示に関しては、「具体的でわかりやすい」「身近に感じられる」「ありきたりでない」「教示的でない」「時代に即した映像」「最新の情報」「資料の配布」「配付資料と映像の連携」の8カテゴリーを抽出した。企画・運営（アプローチ）に関しては、「1回完結型」「選べる日程」「仕事終了後」「1回1時間以内」「質問時間の設定」「会社内」「小集団」「女性専門家による」「男性職員への配慮」「参加意欲を増す広告」の10カテゴリーを抽出した。本結果はプログラム構築の実証的な根拠として活用できるものであると考える。

キーワード：未婚就労女性、性感染症（STI）、予防、プログラム、要素

Key words：unmarried working women, STI, prevention, program elements

I. 序 論

セクシュアル・リプロダクティブヘルス（sexual and reproductive health）は、女性の人権であり、その基本要素の1つに性感染症からの解放（自由）がある¹⁾。わが国のヒト免疫不全ウイルス（human immunodeficiency virus；以下、HIV）感染者は、先進国では唯一年々増加を続けている。HIV感染者は20～30歳代に多く、また性感染症（sexually transmitted diseases / infections）患者数も20～29歳が10歳代より、また他の年齢層より多い²⁾。性感染症感染者は、HIV感染に対する脆弱性も高まる³⁾ため、今後も性感染症感染者数増加に伴いHIV感染者数も増える可能性は否定できない。

性感染症に対して女性は男性より脆弱であり⁴⁾、性感染症は女性のライフサイクルのすべての段階において個人のセクシュアル・リプロダクティブヘルスを、あるいは次世代の健康を脅かすものである^{5)～7)}。

高校生や大学生を対象とした調査では、性感染症の危

険性をはらんだ若者が多いことを報告しており^{8)～10)}、これらの結果は就学終了時に性感染症に関する正しい知識を持ち、予防行動をとる能力が習得できていない女性が存在することを意味する。

未婚女性の性行為経験率は年々高まっており¹¹⁾、女性が未婚のまま就労している期間は長くなってきている¹²⁾。筆者は就労女性を対象に調査を実施し、未婚就労女性は性感染症に関する知識は乏しく、就労期に正しく新しい知識の習得、補充がなされていないことや性感染症予防に関してニーズが存在することを明らかにした¹³⁾。よって産業保健において、未婚就労女性に対して性感染症予防に対する取り組みが必要であるが、未婚就労女性を対象としたプログラムは見あたらない。

本研究の目的は、未婚就労女性のための性感染症予防プログラム（以下、プログラム）を構築するために必要かつ適切な要素を明らかにすることである。

II. 研究方法

1. 研究デザイン

研究デザインはフォーカスグループ・インタビュー法（以下、グループ・インタビュー）による質的帰納的研

究である。この方法は、複数の人間のダイナミックなかかわりによって生まれる情報を系統的に整理して「科学的な根拠」として用いることができる¹⁴⁾¹⁵⁾。本研究では、研究対象である未婚就労女性の印象、感想、ニーズ、意見を出しやすくするためにこの方法を用いた。

2. 対象とリクルート方法

対象は研究協力の同意を得られた A 事業所の大阪本社に就労している未婚女性である。A 事業所は全国に支社・営業所があり約 500 名の就労者がいる製造業の株式会社である。A 事業所大阪本社の女性従業員専用の回覧ルートを用いて広告文書を配布し、研究協力者を募集した。

3. グループ・インタビューの進め方

司会者は筆者以外の性教育や看護教育の実践者である助産師（助産師歴 27 年）が行い、筆者と看護教育職の助産師 2 名が記録・観察者として参加した。

グループ・インタビューは、一般成人向けの視聴覚教材 DVD「蔓延する性病（STD）：クラミジア感染症改訂版

訂版」¹⁶⁾を視聴後、インタビューガイド（表 1）に基づいて実施した。DVD を視聴してもらったのは、参加者の発言を促進するグループ・インタビューの特性を生かすためには、イメージしやすい内容を提示した方がよいと判断したためである。

インタビュー内容は参加者の同意を得て、録音・記録した。

1) 「蔓延する性病（STD）：クラミジア感染症改訂版」について

2000 年に制作され、2005 年に改訂されたものである。本研究実施時点では、一般成人を対象とした視聴覚教材としては最も制作年の新しいものであった。その内容は、性感染症の用語の説明、クラミジア感染症の原因、男女別の患者数・症状、女性の場合の症状や妊娠や胎児への影響、検査法と治療法、予防法についてイラストや実写を用いて説明している。上映時間は約 20 分である。

2) グループ・インタビューの内容

グループ・インタビューに含まれる質問内容(表 1)は、

表 1 フォーカスグループ・インタビューガイド

項目	時間	内容
導入	10 分	1. 挨拶 2. 目的の説明 3. 一般的ルールの説明 4. スタッフの紹介 5. 名札の確認と相手の呼び方の説明
ウォーミングアップ	10 分	参加者の自己紹介
視聴覚教材の視聴	30 分	上映時間は約 20 分
討議	60 分	<視聴覚教材の内容について> この映像を見てどう思いましたか わかりやすかったことは何ですか わかりにくかったことはどんなことですか 皆さんがお知りになりたい内容はどのようなことでしょうか どのような内容を映像やイラストにしてほしいですか <視聴覚教材の時間について> ビデオの上映時間はいかがでしたか どのくらいの長さがよいですか <プログラムの回数・時間について> 皆さんが、このような内容の学習会を受けるとしたら、どれくらいの時間の長さがいいですか 学習会の回数は、1 回、2 回とか何回ぐらいがよいでしょうか 開催時間は、お昼と夕方とか、何時ぐらいがよいでしょうか <プログラム実施時の留意点について> 実施する時には、どのような注意や工夫を希望されますか <プログラム実施者について> 実施者はどのような人がよいですか
まとめ	10 分	他にお話ししたいことはありませんか 質問はありませんか 司会者によるまとめ
終わりの挨拶	5 分	

映像をみての印象・感想・時間の長さの適否、知りたいこと、映像やイラストに関する希望、プログラムの回数・時間の希望、プログラムを実施時の希望、プログラムの実施者に対する希望などである。

4. データ収集時期・場所

グループ・インタビューは平成18年11月にA事業所内の会議室にて実施した。実施日は、研究協力者の勤務時間を1時間短縮する承諾を事業所より得、グループ・インタビューの時間は定時就業時間終了1時間前の午後5時～午後7時までの計2時間であった。グループ・インタビューは1回のみ行った。

5. 分析方法

録音内容は逐語録を作成した。記録および逐語録からテーマごとに内容を分析した。分析過程においては母性看護学・助産学を専門とする研究者4名に確認してもらい、研究指導者のスーパーバイズを受け、信頼性・妥当性を確保した。

6. 研究における倫理的配慮

A事業所および研究協力者募集の広告文書には、研究の目的、方法、日時、場所、所要時間、プライバシーの保護に関すること、グループ・インタビュー内容を録音すること、結果を公表する際は匿名であること、研究責任者、連絡先などを記した。さらにグループ・インタビュー開始前に文書および口頭で再度説明し、理解・同意を得たうえで、研究協力承諾書を得た。

なお本研究は大阪府立大学看護学部研究倫理委員会の審査を受け承認を得た。

Ⅲ. 結果

1. 対象の背景

研究協力を申し出た未婚女性は6名であったが、実施日に欠席者が2名あり（出張、病欠各1名）、4名1組でグループ・インタビューを実施した。参加した女性の

背景を表2に示す。年齢は22～32歳、全員が正規雇用者であり、職種は事務職と専門的技術職であった。性教育は全員が受けて経験があったが、エイズ以外の性感染症について教育を受けたことがない女性が1名いた。

2. プログラムに必要かつ適切な要素

グループ・インタビューを実施し、内容を分析した結果、プログラムに必要・適切な要素として、内容（コンテンツ）の提示に関しては8カテゴリー、企画・運営（アプローチ）に関しては10カテゴリーを抽出した。

1) プログラムの内容の提示について

表3にカテゴリーと主な内容を示している。対象は、どうすればいいのか、どこに行けばいいのか、どういう検査を受ければいいのか、専門用語はわかりやすく説明してほしいなど「具体的でわかりやすい」を求めた。また、「身近に感じられる」ように、そして経験者からの経験談や実務者からの事例や経験談など「ありきたりでない」もので、堅苦しくなく、教育という印象を与えない「教示的でない」ことがよいとの意見があった。使用する映像や情報は古いという印象を与えない「時代に即した映像」、「最新の情報」を求めている。

具体的にわかる資料や教材がほしい、資料があれば後で見直したり、友人や家族に見せたり、話題にできるなど「資料の配付」を希望し、映像だけの説明で難しいところがあれば、それを補う説明なり資料なりがあればわかりやすいなど「配付資料と映像の連携」があった。また、配布資料は携帯可能なサイズの希望があった。

2) プログラムに必要かつ適切な企画・運営

プログラムに必要かつ適切な企画・運営については表3に示すように10カテゴリーを抽出した。定期的に決まって続けて出席することは難しいため、「1回完結型」で「選べる日程」を希望していた。開催時間については、参加のしやすさから「仕事終了後」、「1回1時間以内」で、できれば勤務時間内との意見であった。開催場所につい

表2 グループ・インタビューに参加した対象の背景

年齢	職種	就労形態	性教育の受講時期	性教育の内容
22歳	技術職	常勤	中学・高校・大学	エイズ、エイズ以外の性感染症、避妊
22歳	技術職	常勤	中学・高校	エイズ、避妊
24歳	技術職	常勤	大学	エイズ、エイズ以外の性感染症、避妊
32歳	事務職	常勤	中学・高校	エイズ、エイズ以外の性感染症、避妊

表3 プログラムに必要・適切な要素

項目	分類	内容
内容（コンテンツ）の提示	具体的でわかりやすい	どうすればいいのか、どこに行けばいいのか、どういう検査を受ければいいのかがわかるようにしてほしい 専門用語はわかりやすく説明してほしい
	身近に感じられる	病名を聞いても、病気のことがわからなければ、身近に感じない
	ありきたりでない	プライバシー的に難しいとは思いますが、経験者からなぜ自分が気付いたのかなどの話を聞きたい 専門的に実際にかかっている人や、病院で働いている人の話を聞きたい
	教示的でない	イラストや写真・映像などで、イメージがわきやすいもので堅苦しくないのがよい 教育という印象でないものがよい
	時代に即した映像	古いと印象を受ける映像があった
	最新の情報	統計的な情報などは、できるだけ新しいものがよい
	資料の配布	具体的にわかる資料や教材がほしい 資料あれば、後で見直したり、友人や家族に見せたり、話題にできる 資料のサイズはバッグに入れて持ち歩ける B5 サイズの半分ぐらいがよい 資料やチェック項目があれば、自分の危険度がわかる、それぞれの症状に対して普段から気を付ける
	配付資料と映像の連携	映像を見ても、資料があったら見直せてよい 映像だけの説明で難しいところがあれば、それを補う説明なり資料なりがあればわかりやすい
企画・運営（アプローチ）	1回完結型	定期的に決まって続けて出席することは難しいので1回で完結するのがよい
	選べる日程	同じテーマを何回か開催して、自分の都合のよい日を選べるようにしてほしい
	仕事終了後（できれば勤務時間内）	定時を過ぎた後の方が参加しやすい 会社が勤務時間内に協力的に時間を設けてほしい
	1回1時間以内	映像は20分以内がよい
	質問時間の設定	自分の気になっていることが聞ける
	会社内	会社内の方が参加しやすい 参加した同僚と後で話題にできる
	小集団	10人以内がよい 小集団の方が聞きやすく質問しやすい
	女性専門家による	女性の方が質問しやすい
	男性職員への配慮	性感染症とか性とかのタイトルは職場の男性の目を気にして参加しにくい 女性専用の回覧版などを活用する
	参加意欲を増す広告	参加者からのよかったという声を盛り込む 皆が関心を持っていることを強調する表現にする 知った方がよいことが伝わるようにする

ては、会社内の方が参加しやすいことや参加した同僚と後で話題にできることから「会社内」を希望していた。またプログラム内には自分の気になっていることが聞ける「質問時間の設定」や聞きやすく質問しやすい「小集団」を希望していた。プログラム実施者については、質問のしやすさから「女性専門家による」ことを希望していた。プログラムの広告については、「男性職員への配慮」や「参加意欲を増す広告」についての意見があった。

IV. 考 察

本研究では、グループ・インタビュー法を用いた。わが国において、性感染症に関してグループ・インタビュー法を用いた研究はHIV感染者の支援に関して医療従事者を対象にしたものがある¹⁷⁾が、未婚の就労女性を対象にしたものは見あたらなかった。今回の結果は、1事業所で就労する未婚女性4名から得られたものであり、解釈には慎重さを必要とするが、プログラムを構築する際の実証的な根拠になりうると考える。

本研究で使用した視聴覚教材は、2005年に改訂されたものであったが、対象に映像が古いという印象を与え、専門用語はわかりやすく説明してほしいとの意見が出た。また感染経路については風俗街やソープランドをあげ映像やイラストで提示されていたため、対象者には身近に感じないものであった。この結果は筆者らが、視聴覚教材を分析した結果と同様であり¹⁸⁾、若い一般女性に適した視聴覚教材が必要であることを再確認した。

本研究によって抽出した内容の提示に関する8カテゴリーは、未婚就労女性に特化したことではなく、健康教育として必要な要素である。しかし「ありきたりでない」や「教示的でない」については、学校教育を終え自立した女性を対象とするため考慮を必要とする要素である。つまり学校教育を思わせるような、またいつも同じと思わせるようなプログラムでは効果は得られない。また、学校教育で知識は得ていても、自分のこととして捉まえらるよう「具体的でわかりやすい」、「身近に感じられる」の要素がプログラムに求められ、「小集団」で参加型のプログラム構成を考えることが必要である。

わが国の性教育は未だ系統立っておらず、本研究の女性が視聴覚教材を視聴しての反応や理解が異なっていたように、未婚就労女性の性感染症に関する知識は女性によって異なるが、正しい知識や情報に対するニーズがある^{13) 19)}。そのためプログラムでは、「資料の配布」によって補充することや「質問時間の設定」は勿論のことプログラム後に継続した関わりも考慮しなければならない。

プログラムの企画・運営について抽出した10カテゴリーは、就労女性の特徴が出ていると考える。プログラムは、これらの要素を踏まえることが必要である。特に「1回完結型」、「選べる日程」、「1回1時間以内」は、プログラム参加者を増やすために重要な要素である。時間については、「仕事終了後」できれば勤務時間内、場所については「会社内」という意見であった。「男女共同参画社会基本法」(2000年)でリプロダクティブ・ヘルス/ライツの推進が謳われており、産業保健(看護)として事業所を巻き込んでの取り組みが必要であろう。またプログラムの広告については、「男性職員への配慮」の意見があった。この結果は、わが国の戦後の性教育は「純潔教育」が施策としてなされていた^{20) 21)}ことの影響や、性を明るみに出すべきではない隠微なものとする伝統的社会規範が存在する²²⁾ことが視え、年齢層が広い成人期の男女が存在する職場においては配慮を要することである。

V. 結 論

未婚就労女性のための性感染症予防プログラムを構築するために必要かつ適切な要素を明らかにすることを目的として、A事業所で就労する未婚女性4名を対象にフォーカルグループ・インタビューを実施した。

結果、内容の提示に関しては、「具体的でわかりやすい」、「身近に感じられる」、「ありきたりでない」、「教示的でない」、「時代に即した映像」、「最新の情報」、「資料の配布」、「配付資料と映像の連携」の8カテゴリーを抽出した。

企画・運営に関しては、「1回完結型」、「選べる日程」、「仕事終了後」、「1回1時間以内」、「質問時間の設定」、「会社内」、「小集団」、「女性専門家による」、「男性職員への配慮」、「参加意欲を増す広告」の10カテゴリーを抽出した。

本研究の結果は、未婚就労女性のための性感染症予防プログラムの構築に際して示唆を与えるものである。

謝 辞

本研究の趣旨と必要性をご理解頂き、ご協力くださいました事業所ならびに担当部署の皆様、そして貴重な時間をさいて快く研究にご協力下さいました未婚就労女性の皆様に感謝申し上げます。

本研究のご指導を賜りました大阪府立大学名誉教授末原紀美代先生に深く感謝いたします。

本研究の一部は、10th East Asian Forum On Nursing Science (EAFONS) Annual Conference に発表しました。

文部科学省平成 18 年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ研究助成大阪府立大学大学院看護学研究科の助成を受けました。

文 献

- 1) 松本清一：リプロダクティブ・ヘルスの流れと日本の取組み. 世界と人口, 276, 6-20, 1997.
- 2) 国立感染症研究所感染症情報センター：報告数データ, <http://idsc.nih.go.jp/idwr/index.html>, 2007, 5, 10 取得.
- 3) Wasserheit J.N.: Epidemiological synergy, Inter-relationship HIV infection and other STDs. AIDS and Women's Reproductive Health, NY Plenum, 1992.
- 4) 熊本悦明：女性優位の STD 時代 STD の最近の動向. 臨床婦人科産科, 55(1), 10-18, 2001.
- 5) 津熊秀明主任研究者：厚生労働省がん研究助成『地域がん登録』の推計値 The Research Group for Population-based Cancer Registration in Japan: Cancer incidence and incidence rates in Japan in 1998: estimates based on data from 12 population-based cancer registries. Jpn J Clin Oncol, 33 (5) 241-245, 2003.
- 6) 河上征治, 青木豊和：クラミジア感染と不妊症および子宮外妊娠. 産科と婦人科, 62(5), 655-659, 1995.
- 7) 竹田省, 木下勝之：周産期のクラミジア感染症. 産科と婦人科, 62(5), 661-664, 1995.
- 8) 岸田泰子, 佐藤龍三郎：望まない妊娠と性感染症に関する女子大学生の知識と態度・行動. 思春期学, 16(1), 102-107, 1998.
- 9) 木原雅子：日本の若者の性行動と Sexual Health - 全国国立大学生 Sexual Health Study -. 性と健康, 創刊準備号, 26-29, 2001.
- 10) 松島可苗：札幌市近郊における新入大学生の性知識と性行動. 北海道医療大学看護福祉学部学会誌, 1(1), 29-35, 2005.
- 11) 毎日新聞社人口問題調査会, 2000.
- 12) 総務省統計局：平成 19 年平均労働力調査, <http://www.stat.go.jp/data/roudou/2.htm>, 2008, 11, 10.
- 13) 齊藤早苗, 末原紀美代：就労女性の性感染症に関する知識と意識. 日本母性衛生学会誌, 47(4), 571-581, 2007.
- 14) Vaughn S., Schumm J.S., Sinagub J.M. (1996) : FOCUS GROUP INTERVIEWS IN EDUCATION AND PSYCHOLOGY. 井下理監訳 (1999) : グループ・インタビューの技法. 慶應義塾大学出版会, 東京.
- 15) 安梅勅江：ヒューマン・サービスにおけるグループインタビュー法 - 科学的根拠に基づく質的研究法の展開. 医歯薬出版, 東京, 2001.
- 16) DVD 蔓延する性病 (STD) クラミジア感染症改訂版：熊本悦明学術指導, (株) 新和, 東京, 2005.
- 17) 井上洋士, 村上未知子, 有馬美奈, 他：HIV 感染者のセクシュアルヘルスへの医療従事者による支援に関する調査研究. 日本エイズ学会誌, 6, 174-183, 2004.
- 18) 齊藤早苗, 末原紀美代：わが国の性感染症予防に関する一般成人向け視聴覚教材の分析. 関西福祉大学研究紀要, 11, 119-125, 2008.
- 19) 白井千香, 小野寺昭一：無症候性性感染症の現状と対策若年者における無症候性器クラミジア感染症の実態把握と蔓延防止システムについて. 日本性感染症学会誌, 17(1), 28-34, 2006.
- 20) 瀧澤俊行 他：基礎から学ぶ学校保健. 建帛社. 2008.
- 21) 吉田瑩一郎：新しい保健科教育. 教育出版. 2000.
- 22) NHK「日本人の性」プロジェクト編, NHK 日本人の性行動・性意識, 22-35, NHK 出版, 2002.